政府統計
統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

整理番号

厚生労働省

秘 令和８年国民年金被保険者実態調査

お答えいただいた調査票の内容を統計以外の目的に使用することは、法律で禁じられています。また、年金保険料納付の督促や徴税の資料などに使用されることは絶対にありませんので、安心してありのままをお答えください。

＜記入上の注意＞
○ 封筒のあて名の方が記入してください。
　本人が記入できない場合は、ご家族、または介護をしている方が記入を手伝ってください。
○ 問１～問２９（問２５を除く）について、当てはまる番号に○を付けてください。問２５はお示しする形式でご記入ください。
○ できるだけ黒のボールペンで記入してください。

～～～～　国民年金制度の周知状況についてお伺いします　～～～～

問１　国民年金制度のしくみについてお伺いします。当てはまる番号に○を付けてください。

	知っていた	知らなかった
老齢基礎年金（老後にもらえる公的年金の一階部分）を受け取るためには、公的年金に加入し、保険料を納めた期間と免除されていた期間等の合計が１０年以上必要である	1	2
物価や国民生活水準の変動に応じて年金額が改定され、受けられる年金の実質的な価値がなるべく変わらないようにする仕組みである	1	2
病気や事故で障害が残ったときに受けられる障害年金がある	1	2
本人の死亡時に、遺族の方が受けられる遺族年金がある	1	2
全国民共通の基礎年金（公的年金の一階部分）は、民間の個人年金とは異なり、年金額の１／２は国が負担している	1	2
保険料を納めると、その年に納めた保険料額の全額が税金の計算のときに所得から差し引かれるので、納めなければならない税金は少なくなる	1	2
保険料を納め忘れた場合でも、過去２年分までさかのぼって納めることができる	1	2
保険料を一括して前払いすると、保険料が割引される仕組み（前納制度）がある	1	2

SAMPLE

問２　国民年金保険料の免除制度、猶予制度についてお伺いします。当てはまる番号に○を付けてください。

	知っていた	知らなかった
経済的な理由で保険料を納めることができない場合、世帯の所得などに応じて保険料の全部、または一部が免除される制度（免除制度）がある	1	2
保険料が全額免除された期間は、老後に受け取る年金を計算する際に、保険料を納付していた場合の１／２が給付される	1	2
所得の少ない学生のために保険料の全部が猶予される制度（学生納付特例制度）がある	1	2
所得の少ない 50 歳未満の方のために保険料の全部が猶予される制度（保険料納付猶予制度）がある	1	2
保険料を免除または猶予された期間のうち、過去 10 年間分については、さかのぼって保険料を納める仕組み（追納制度）がある	1	2
学生納付特例制度または納付猶予制度を利用して保険料が猶予された場合、その後に追納しないと、猶予された期間は年金額に反映されない	1	2

～～～～　在学状況についてお伺いします　～～～～

問３　あなたは、令和８(2026)年３月末時点で学生でしたか。当てはまるものを１つだけ選んでください。

※　令和８(2026)年３月に卒業した方も１～４のいずれかに○をつけてください。

1	学生だった（下記の２、３、４の学生は除きます）
2	休学中の学生だった
3	定時制の課程等（高等学校の夜間等や大学の夜間学部）に在学中の学生だった
4	通信制の課程や学部に在学中の学生だった
5	学生でなかった

※　定時制の課程等や通信制の課程等の学生で休学中だった方は、「２」を選んでください。

SAMPLE

～～～～　出産・育児の状況についてお伺いします　～～～～

問４　令和８(2026)年３月末時点のあなたの状況として、当てはまる番号にすべて○を付けてください。

1	１歳以上３歳未満の子がいる
2	１歳未満の子がいる
3	現在妊娠中である。または、配偶者が妊娠中である
4	１～３には当てはまらないが、将来子供を持ちたい（３歳以上の子をお持ちの方はさらに持ちたい）と考えている
5	いずれにもあてはまらない　→ 問７へ

問４で、１～４のいずれかを選択された方は問５へ

問５　（問４で１～４を選択された方）産前産後期間の免除制度についてお伺いします。当てはまる番号に○を付けてください。

	知っていた	知らなかった
出産を行った際に、出産前後の一定期間の保険料の全部が免除される制度（産前産後期間の免除制度）がある	1	2
産前産後期間の保険料免除制度の該当期間は、保険料を納付した場合と同様に年金の受給額に反映される	1	2

いずれかで「１」を選択された方は問６へ

いずれも「２」を選択された方は問７へ

問６　（問５のいずれかの項目で１を選択された方）産前産後期間の保険料免除制度についてどこで知りましたか。当てはまる番号にすべて○を付けてください。

1	自治体や保健センターなどで母子手帳や出産育児一時金の手続きなどをする際に知った
2	家族・友人・知人から聞いて知った
3	出産・育児に関する雑誌またはこれら民間事業者のホームページで知った
4	こども関係のイベントで配付されたリーフレットで知った
5	日本年金機構や自治体のホームページで知った
6	その他

SAMPLE

～～～～　国民年金の保険料の納付状況・納付方法についてお伺いします　～～～～

問７　令和６(2024)年４月から令和８(2026)年３月までの２年間のあなたの国民年金の保険料について、主にどなたが負担しましたか。最も当てはまるものを１つだけ選んでください。

1	自分の収入などにより支払った
2	父母が負担した
3	配偶者が負担した
4	１～３以外の者が負担した
5	この２年間保険料を納めたことがない、または全額免除あるいは猶予された

問８　現在主に利用している納付方法について１つ選んで○を付けてください。

1	金融機関の口座から自動引き落とし（口座振替）
2	クレジットカードで継続納付
3	金融機関の窓口で納付
4	コンビニエンスストアで納付
5	スマートフォンアプリ（●●ペイなど）で納付
6	ねんきんネット等からインターネットバンキングを利用した納付
7	その他
8	保険料を納めていない、または、全額免除あるいは猶予されている → 問１４へ

「１～７」を選択された方は問９へ

SAMPLE

問９　（問８で１～７を選択された方）問８で選んだ納付方法を利用されている理由について○を付けてください。（複数回答可）

1	納付漏れや納付忘れを防ぐことができるため
2	自ら納付書を用いて金融機関やコンビニエンスストアで納付する方が安心するため
3	手軽にパソコンやスマートフォンで納付できるため
4	手数料がかからないため
5	紙の領収書が手元に残るため
6	前納した場合、他の納付方法より割引額が大きいから
7	その他

問８で「１　口座振替」を選択された方 → 問１３へ

問８で「２～７　口座振替以外の納付方法」を選択された方 → 問１０へ

問１０　（問８で２～７を選択された方）口座振替納付でまとめてお支払い（前納）いただく際には、他の納付方法と比較して割引額が最も大きくなります。このことをご存じでしたか。次のうち最も当てはまるものに１つだけ丸を付けてください。

1	口座振替で前納する方が他の納付方法による前納と比べ割引額が大きくなることを知っていた
2	割引があることは知っていたが、口座振替で前納する方が他の納付方法による前納と比べ割引額が大きくなることを知らなかった
3	口座振替で前納する際に割引があることを知らなかった

SAMPLE

問１１　（問８で２～７を選択された方）口座振替を利用していない（利用しづらい）理由について、次の中から当てはまるもの全てに○を付けてください。

1	どのように口座振替への切り替えをしたらよいか手続方法がわからないから
2	口座登録の手続きについて紙で届け出ることや金融機関への印影確認等が面倒だから
3	口座振替の手続きについて電子申請で行えることを知らなかったから
4	口座振替を辞めたい時に、すぐに辞められるか（余分に引き落とされないか）心配だから
5	毎月定期的に引き落とされるよりも、自分の都合に合わせて納めたいから
6	その他

問８で「２　クレジットカード納付」を選択された方 → 問１２

問８で「２」以外を選択された方 → 問１３へ

問１２　（問８で２（クレジットカード納付）を選択された方）現在、クレジットカードによる納付を利用いただく際に、手数料のご負担はいただいておりません。今後、他の税金等のクレジットカードの納付と同様に手数料をご負担いただくとした場合、今後もクレジットカードでの納付を継続されますか。次のうち最も当てはまるものに１つだけ丸を付けてください。

1	今後も*継続*してクレジットカードでの納付を継続したい
2	クレジットカードでの納付を継続するかは、手数料の金額次第と考える
3	口座振替による納付に変更したい
4	口座振替、クレジットカード納付以外の納付方法に変更したい
5	その他

問１３　あなたは、20 歳以降、国民年金の保険料を全額免除または猶予された期間以外で、保険料を納めなかった期間がありますか。次のうちどちらかに丸を付けてください。

1	ない →	問１７へ
2	ある →	問１４へ

SAMPLE

問１４　（問１３で２を選択された方）納めていない保険料について、どのように考えていますか。あなたの考えに最も当てはまるものを１つだけ選んでください。

1	もう少し生活にゆとりができれば、納めていない保険料を納めたい
2	年金制度の意義や有利な点が理解できれば、納めるつもりである
3	保険料を納めたいが、納付期限（２年１か月）が過ぎているので納めることができない
4	年金制度や厚生労働省・日本年金機構は信用できないので納めるつもりはない
5	国民年金は当てにしていないので、納めるつもりはない
6	その他

問１５　（問１３で２を選択された方）国民年金の保険料を納めなかった理由について、次の中から当てはまるものがあれば、「当てはまるもの」の欄に○（いくつでも）を、当てはまるものの中から、最も主要なものには、「最も主要なもの」の欄に○（１つのみ）をつけてください。

		当てはまるもの（○はいくつでも）	最も主要なもの（○は１つのみ）
1	うっかりして忘れた、あるいは、後でまとめて払おうと思ったから		
2	保険料が高く、経済的に支払うのが困難だったから		
3	納める保険料に比べて、十分な年金額が受け取れないと思うから		
4	老後のことや年金のことに関心がないから		
5	これから保険料を納めても加入期間が短く、年金がもらえないから		
6	すでに、年金を受ける要件を満たしていたから		
7	年金制度の将来が不安、あるいは、信用できないから		
8	納めた保険料が無駄遣いされているのではないかなど、厚生労働省・日本年金機構が信用できないから		
9	自分以外にも保険料を納めていない人がいたから		
10	特に理由はない		

→「２」を１つでも選択された方は、問１６へ

→「２」を１つも選択されなかった方は問１７へ

SAMPLE

問１６（問１５で２を選択された方）「保険料が高く、経済的に支払うのが困難だったから」を選択した理由を次の中から１つだけ選んでください。

1	もともと収入が少ない、あるいは不安定だったから
2	失業、倒産、天災、事故、病気などにより所得が低下したから
3	保険料より優先度の高い支出が多かったから
4	その他

問１７　これまで保険料を納めてきた期間（厚生年金等に加入していた期間も含みます。）や免除されていた期間など、「老後に年金を受けるために必要な期間」について、あなたご自身の期間は、どのくらいあると思いますか。当てはまるものを１つだけ選んでください。

1	25 年以上	問１８（選択肢１、２）に進んでください
2	10 年以上 25 年未満	
3	10 年未満	問１８（選択肢３、４、５）に進んでください。

問１８　これからの国民年金の保険料について、どのようにしていきたいと考えていますか。当てはまるものを１つだけ選んでください。

（問１７で１または２を選択された方）次の選択肢１、２から１つだけ選んでください。

1	満額となる 40 年に近づけるよう、できるだけ長く納める
2	もうこれ以上納めない

問１７で、３を選択された方は、次の選択肢３、４、５から１つだけ選んでください。

3	満額となる 40 年に近づけるよう、できるだけ長く納める
4	10 年に届くまで納めることを目指す
5	もうこれ以上納めない

SAMPLE

問１９ 満額となる 40 年を超えて追加的に保険料を納付することでその後受け取る年金額を増やすことができるとした場合、これに対するあなたの考えに最も当てはまるものを１つだけ選んでください。

1	将来受け取る年金額が増えるため、利用したい
2	公的年金以外にも老後の備えを考えているため、利用希望はない
3	追加で保険料を納付することの経済的負担が大きいため、将来受け取る年金額が増えるとしても利用希望はない
4	60 歳以降も保険料を納付してまで年金額を増やすことのメリットがわからないため、利用希望はない
5	健康寿命の延伸や高齢で働いている方が増加している近年の現状を考えると、追加的に保険料を納付することは自然である。

～～～～　公的年金以外の老後の備えについてお伺いします　～～～～

問２０ 公的年金以外にどのような方法での老後の備えを考えていますか。当てはまる番号のすべてに〇をつけてください。

1	預貯金による積立
2	株式・債券・投資信託 ※NISA（少額投資非課税制度）や iDeCo（個人型確定拠出年金制度）を活用しているものを含みます。
3	生命保険 ※掛け捨てではなく、積み立てた保険金が将来受け取れるものを指します。
4	個人年金保険 ※国民年金（保険料月額〇〇円）に上乗せする「国民年金基金」を含みます。
5	その他
6	特に考えていない

問２１ 令和７（2025）年４月から令和８(2026)年３月までの間に、個人型確定拠出年金（iDeCo）の掛金拠出をしましたか。当てはまる番号に〇をつけてください。

1	はい
2	いいえ

SAMPLE

～～～～　就業状況についてお伺いします　～～～～

以下の設問では、令和８(2026)年３月末時点での働き方などについてお伺いします。
・記入日現在の状況ではありませんのでご注意ください。
・複数の事業所にお勤めの場合は、最も所定労働時間の多い事業所をひとつだけ選んでお答えください。
・派遣社員の方は派遣元の事業所についてお答えください。

問２２　令和８(2026)年３月末時点のあなたの就業状況について、当てはまる番号に*１つだけ*○を付けてください。また、「１　自営業主」を選択された方は、さらに、フリーランスに該当するかどうかについて、「１ はい」、「２ いいえ」のいずれかの番号に○を付けてください。

1	自営業主（個人経営の商店主や農業主など）	→ フリーランスに該当しますか。 １ はい　　２ いいえ
2	家族従業者（自営業主の手伝い）	
3	正社員などフルタイムの方	
4	パート・アルバイト	
5	臨時（日雇いや季節的業務など）	
6	働いていない	→ 本調査の回答はこれで終了です。 ご協力ありがとうございました。

※フリーランスについて
自営業種のうち、実店舗がなく、雇人もいない場合をいいます。ただし、農林水産業に従事する方は該当しません。
「実店舗なし」については、専用の事務所・店舗を設けず、自宅の一部で小規模に事業を行う場合は「実店舗」に区分しないこととし、共有型のオープンスペースであるコワーキングスペースやネット上の店舗も実店舗としません。
「雇人なし」については、従業員を雇わず自分だけで又は自分と同居の親族だけで個人経営の事業を営んでいる者とします。

※日雇いの場合、同一の事業所で１か月を超えて使用されるに至った方は、選択肢５ではなく、勤務実態に応じて選択肢３または４を選んでください。また、建設業等におけるいわゆる「一人親方」の場合でも、実際に雇用関係がある場合には、勤務実態に応じて選択肢３または４を選んでください。

「６　働いていない」以外（１～５）を選択された方は問２３へ

問２３（問２２で「６　働いていない」以外を選択された方）令和８(2026)年３月末時点の勤務先について、当てはまるものを１つだけ選び、○をつけてください。

1	法人（株式会社、有限会社、医療法人、社会福祉法人など）
2	個人経営
3	国・地方公共団体

SAMPLE

問２４（問２２で「６　働いていない」以外を選択された方）令和８(2026)年３月末時点の勤務先の業種について、当てはまるものを１つだけ選び、○をつけてください。

1	農林水産業
2	鉱業・採石業・砂利採取業
3	建設業
4	製造業
5	電気・ガス・熱供給・水道業
6	情報通信業
7	運輸業・郵便業
8	金融・保険業
9	不動産業・物品賃貸業
10	学術研究・広告・技術サービス業
11	飲食店・宿泊業
12	教育・学習支援業
13	医療・福祉
14	複合サービス事業（農協、漁協など）
15	卸売・小売業（コンビニエンスストア、ドラッグストア、スーパーなど）
16	専門サービス業（17 の「次に掲げる士業」を除く）
17	次に掲げる士業　　弁護士、公認会計士、公証人、司法書士、土地家屋調査士、行政書士、海事代理士、税理士、社会保険労務士、沖縄弁護士、外国法事務弁護士、弁理士
18	生活関連サービス業（理美容業、クリーニング業、浴場業など）
19	娯楽業（スポーツ施設、遊園地、パチンコホール、カラオケボックスなど）
20	廃棄物処理業（ごみ収集運搬業、産業廃棄物処理業など）
21	その他のサービス業（労働者派遣業、ビルメンテナンス業、警備業など）
22	公務

問２２で「３ 正社員などフルタイムの方」又は「４ パート・アルバイト」を選択された方 → 問２５へ

問２２で「３ 正社員などフルタイムの方」又は「４ パート・アルバイト」以外を選択された方 → 本調査の回答はこれで終了です。ご協力ありがとうございました。

SAMPLE

以下、問２５～問２９（本調査票の最後まで）は、問２２で「３ 正社員などフルタイムの方」又は「４ パート・アルバイト」を選択した方がお答えください。

問２５ 令和８(2026)年３月末時点の勤務先について、あなたが就職した時期を西暦で記入してください。

西　暦　□ □ □ □年　□ □月

問２６ 令和８(2026)年３月末時点の勤務先について、正社員は何人いましたか。

1	１～４人	5	36～ 50 人
2	５～10 人	6	51～100 人
3	11～20 人	7	101～500 人
4	21～35 人	8	501 人以上

※本社・本店や出張所も含む企業全体の人数でお答えください。
※正確にわからない場合はおおよその数で結構です。

問２７ 令和８(2026)年３月における勤務先で 、あなたの１週間あたりの所定労働時間はおよそどれくらいですか。

1	10 時間未満	4	20～30 時間未満
2	10～15 時間未満	5	30～40 時間未満
3	15～20 時間未満	6	40 時間以上

※所定労働時間には、残業時間を含みません。
※複数の事業所にお勤めの場合は、最も所定労働時間の多い事業所をひとつだけ選んでお答えください。

問２８ 令和８(2026)年３月末時点の勤務先の事業所は、社会保険（健康保険・厚生年金保険）に加入していましたか。

1	加入していた
2	加入していなかった
3	わからない

※あなたが社会保険に加入していなかった場合でも他に加入していた従業員がいる場合は「加入していた」を選択してください。

SAMPLE

問２９ 令和８(2026)年３月末時点で、副業・兼業やアルバイトの掛け持ちなどで、同時に複数の事業所で雇用されていましたか。

１	１つの事業所のみで雇用されていた
２	同時に複数の事業所で雇用されていた

本調査の回答はこれで終了です。ご協力ありがとうございました。

・記入誤りや記入もれがないか、もう一度ご確認ください。
・同封の返信用封筒に入れて、締切日までに投函してください。切手は不要です。

SAMPLE

令和８年国民年金被保険者実態調査　所得等調査調査票（１）

整理番号	特別調査の有無	現在の世帯員数		令和7年の所得金額			
				本人の所得金額		世帯の所得金額	
		世帯員数	うち18歳未満	(1)総所得金額（万円） 世帯員整理票は円単位ですが、調査票への転記は万円単位でお願いします。	(2)市区町村民税課税状況 1．課税 2．非課税	(3)総所得金額（万円） 世帯員整理票は円単位ですが、調査票への転記は万円単位でお願いします。	(4)市区町村民税課税状況 1．課税 2．非課税
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	
				（万円）		（万円）	

SAMPLE

令和８年国民年金被保険者実態調査 所得等調査調査票(2)(所得等特別調査)

整理番号

SAMPLE

本人の状況

1. 本人の総所得金額 ＿＿＿＿＿＿円

2. 各種控除額

① 雑損控除 ＿＿＿＿＿＿円

② 医療費控除 ＿＿＿＿＿＿円

③ 社会保険料控除 ＿＿＿＿＿＿円

④ 小規模企業共済等掛金控除 ＿＿＿＿＿＿円

⑤ 配偶者特別控除 ＿＿＿＿＿＿円

⑥特定親族特別控除 ＿＿＿＿＿＿円

3. 控除対象者等の状況

① 同一生計配偶者(70歳以上)・老人扶養親族 ＿＿＿＿＿＿人

② 特定扶養親族及び扶養親族(16歳以上19歳未満に限る) ＿＿＿＿＿＿人

③ 同一生計配偶者(障害者)及び扶養親族(障害者) ＿＿＿＿＿＿人

④ 同一生計配偶者(特別障害者)及び扶養親族(特別障害者) ＿＿＿＿＿＿人

⑤ ①～④以外の同一生計配偶者及び扶養親族 ＿＿＿＿＿＿人

⑥ 本人の状況(該当するものすべてに○をつける)

	1. 障害者
	2. 特別障害者
	3. 寡婦
	4. ひとり親
	5. 勤労学生

4. 地方税法附則第6条第4項の免除に係る所得額 ＿＿＿＿＿＿円

配偶者の状況

1. 配偶者の有無

	1. 配偶者なし(以下項目の記入不要)
	2. 配偶者あり(以下項目に記入)

2. 配偶者の総所得金額 ＿＿＿＿＿＿円

3. 各種控除額

① 雑損控除 ＿＿＿＿＿＿円

② 医療費控除 ＿＿＿＿＿＿円

③ 社会保険料控除 ＿＿＿＿＿＿円

④ 小規模企業共済等掛金控除 ＿＿＿＿＿＿円

⑤ 配偶者特別控除 ＿＿＿＿＿＿円

⑥特定親族特別控除 ＿＿＿＿＿＿円

4. 控除対象者等の状況

① 同一生計配偶者(70歳以上)・老人扶養親族 ＿＿＿＿＿＿人

② 特定扶養親族及び扶養親族(16歳以上19歳未満に限る) ＿＿＿＿＿＿人

③ 同一生計配偶者(障害者)及び扶養親族(障害者) ＿＿＿＿＿＿人

④ 同一生計配偶者(特別障害者)及び扶養親族(特別障害者) ＿＿＿＿＿＿人

⑤ ①～④以外の同一生計配偶者及び扶養親族 ＿＿＿＿＿＿人

⑥ 配偶者本人の状況(該当するものすべてに○をつける)

	1. 障害者
	2. 特別障害者
	3. 寡婦
	4. ひとり親
	5. 勤労学生

5. 地方税法附則第6条第4項の免除に係る所得額 ＿＿＿＿＿＿円

世帯主の状況

1. 本人との関係

	1. 本人が世帯主(以下項目の記入不要)
	2. 配偶者が世帯主(以下項目に記入不要)
	3. それ以外(以下項目に記入)

2. 世帯主の総所得金額 ＿＿＿＿＿＿円

3. 各種控除額

① 雑損控除 ＿＿＿＿＿＿円

② 医療費控除 ＿＿＿＿＿＿円

③ 社会保険料控除 ＿＿＿＿＿＿円

④ 小規模企業共済等掛金控除 ＿＿＿＿＿＿円

⑤ 配偶者特別控除 ＿＿＿＿＿＿円

⑥特定親族特別控除 ＿＿＿＿＿＿円

4. 控除対象者等の状況

① 同一生計配偶者(70歳以上)・老人扶養親族 ＿＿＿＿＿＿人

② 特定扶養親族及び扶養親族(16歳以上19歳未満に限る) ＿＿＿＿＿＿人

③ 同一生計配偶者(障害者)及び扶養親族(障害者) ＿＿＿＿＿＿人

④ 同一生計配偶者(特別障害者)及び扶養親族(特別障害者) ＿＿＿＿＿＿人

⑤ ①～④以外の同一生計配偶者及び扶養親族 ＿＿＿＿＿＿人

⑥ 世帯主本人の状況(該当するものすべてに○をつける)

	1. 障害者
	2. 特別障害者
	3. 寡婦
	4. ひとり親
	5. 勤労学生

5. 地方税法附則第6条第4項の免除に係る所得額 ＿＿＿＿＿＿円